

生きている世界

岩元 優芽

清風南海高等学校

「あの人とは、生きている世界が違うから」そう言って、物事を諦めた事がありますか。

生まれ育った環境や家族や友達など周りにいる人の差、それ以外にも生まれ持った素質や性格、才能など様々なものの違いから生きている世界が違うからだとか生まれ育った環境が違うからだなどと言いつつしたことはありませんか。でも、皮肉なことに生きている世界が違うと思った人も私たちと同じ世界に生きています。

私がそれを実感したのは学校行事の一つである文化芸術の日です。この行事は、主に文化部の活動成果の発表やクラスが一丸となり出し物をしたりする行事です。そして、この学校を志望校にしている小学生や中学生、卒業生など様々な外部の方が来られる数少ない一大イベントの一つです。私は、この行事の実行委員をしていました。実行委員では、当日の装飾を作るなどの作業や文化芸術の日のテーマを考えるとやクラスの出し物がルールに反していないか会議など多岐にわたる仕事を最高学年となる高校二年生を中心として、中高一貫で行っていきます。高校一年生で殆ど初めて実行委員の仕事を経験した私は、中学生の頃から委員をしていた同期にも馴染めずにいました。でも、それに気付いた高校二年生の先輩方からとてもよくして頂きこの委員に行くことが楽しくて仕方なかったのを覚えています。今考えれば、高校二年生としての仕事があるにも関わらず周りへの配慮も忘れない先輩方は本当に凄いと思います。そして、デザインを考える会議などでは誰も考えつかないようなアイデアを思いつく発想力や多面的なものの見方には圧倒され、実際の作業では、様々な分野で輝く技術力と多才さにこの人たちは私とは違う世界で生きている人なのだと感じざるを得ませんでした。ですが、帰り道での他愛のない趣味の話では共感できる事の方が多く、恋人の話などをしている先輩には可愛らしい人だなどおこがましいと分かっているながらも感じる事すらありました。だから私は、単純にこの先輩方は生きている世界が違うとは思えなかったし、多才で個性豊かな先輩たちも同じ世界に生きているのだと実感しました。

そして、もう一つ気付けたことがありました。それは、生きている世界が違うのではなく、世界の見え方が違うのだということです。世界の見え方が違うのは、恐らく多面的にもものを見ることが出来、視野が広く持っているからだだと思います。何よりそれは、生まれ持った才能などでは決してなく様々な経験や努力の末に身に付いていくものだと分かったことです。だから、これからは生きている世界が違うと一見雲の上にいる人や逆に理解し得そうもない人と人間関係を持つことを諦めるのではなく、今その人と見えている世界が違っていても経験や努力を重ねることで同じような世界が見えるようになるかもしれないと考えようになりました。そして、私は様々な努力や経験をしていつか同じ世界を生きている先輩方と同じような世界を見られるようになっていきたいです。